

<様式3-別紙(A)>

平成 19 年 8 月 15 日

平成 19 年度聖ルカ・ライフサイエンス研究所

## 研 修 報 告 書

研 修 課 題

M. D. Anderson Cancer Center Medical Exchange Program

JME Program 2007

所属機関・職 順天堂医院 乳腺科 准教授

研修者氏名

齊藤光江

印

## I 目的・方法

Page.  1

### <目的>

- ①MDA のチーム医療の現状を視察し、自施設・日本の医療の向上に役立てる
- ②15年前の自分のMDA 留学時と今の様々な状況を比較する（自分自身、MDA,アメリカ、日本）ことにより、歴史的考察から、未来の向上につなげる。
- ③日々の過重労働（16時間労働の連続）に終止符を打ち、自分自身の健康を取り戻し、MDA の医療者の労働条件・人生観を視察し、医療のみならず自分をはじめとして日本人医師の労働量・人生がどうあるべきかを考え直す。

### <方法>

- ① 研修プログラムに参加し、そこで得た見聞を咀嚼し、日本の現状と比較し、応用できることを考える。
- ② MDA のみならず、課外での人・町・政治・文化にふれあい、過去との比較をし、考察する。
- ③ MDA の医療者の生活・信条を知り、日本の医療者の生き方や労働条件との比較をする。

## II 内容・実施経過

Page.  2

### 1) 経過

- ① 各科・各職種見学（スケジュール参照）
  - \* 外科（乳腺外科、形成外科）・・・2w
  - \* 病理（乳腺病理）・・・1w
  - \* 放射線治療科・・・1w
  - \* 腫瘍内科（乳腺腫瘍内科）・・・2w
  - \* 腫瘍内科（melanoma）・・・1w
  - \* 腫瘍内科（stem cell transplant）・・・1w
  - \* ホスピス・緩和ケア・ウェルネス
  - \* リハビリテーション科
  - \* 外来化学療法センター・Infusion center
  - \* 放射線診断（US, Mammotome）
- ② 講義受講（スケジュール参照）
  - \* オリエンテーション
  - \* 電子カルテ
  - \* 医療法規（国・州）
  - \* IRB
  - \* 臨床試験
  - \* 統計
  - \* 癌の基礎と臨床  
（大学院講義シリーズ）
  - \* リーダーシップ  
・（シリーズ, Ns, Ph, Dr の・・・）
  - \* ボランティア活動
  - \* スピリチュアルケア
  - \* 代替医療研究・相談
  - \* 緩和ケア
  - \* 看護師の役割と教育
  - \* 薬剤部門の役割
  - \* 放射線治療学
  - \* 乳腺病理
  - \* 総合内科学
- ③ 症例報告：妊娠期乳癌の化学療法とケア
- ④ 知り合った患者さん、医療者に話を聞く

⑤ 社会見学（院外、課外）

\*Corteo サーカス

\*オープンハウスツアー

\*中華街で飲茶

\*カントリーミュージックとバーベキューのコンテスト

\*野球観戦

\*NASA

\*博物館

\*サイクリング、ジョギング、オペラ、クラシックコンサート、美術館

\*プール、テニス、TexMex 料理、動物園

⑥ 参加仲間との交流（他職種、他施設の現状を知る）

自主的に、課外でお互いの職種の教育課程や認定制度などの紹介をした。

### Ⅲ 成果

Page. 3

① 各科・各職種見学（スケジュール参照）

他の医療職や他の医師の診療姿勢をこのように密着して見学する機会は、日本でも無く、人を見ることができたという意味で、貴重な体験であった。

② 講義受講（スケジュール参照）少人数での講義は、とても贅沢で、充実しており、ありがたかった。

③ 知り合った患者さん、医療者に話を聞く

皆が、職場に満足し、張り切って仕事をし、更にレベルアップするための教育の機会を望み、これに挑戦し、機会を利用して昇進し、輝いて生きていることがわかった。また、このように充実した仕事のみならず、家庭生活や趣味を楽しむことも忘れず、日々バランスの取れた生活を営んでいることを羨ましく思った。

④ 社会見学（院外、課外）

アメリカの良さと欠点を知ることができた。

（長所1）社会が柔軟で、常に良いと思われる方向へ変わっていくテンポが速い。

（長所2）プライベートな生活を大事にしている。ライフ・ワークバランスを古くから考えている。→分業が進んでいる。

（長所3）早起き

（長所4）自分の行動目標を明確に表現できる。誰でも・・・（教育効果？）

（長所5）論理的（多民族ゆえ、感性に頼れない）

（長所6）目先の見返りを望まぬ大きな投資（この研修会や職員への教育助成がよい例）

（問題1）医食同源の考え方が無い。食生活の粗末さ。カロリー過多。それによる肥満人口の多さ。（DM,HT,乳癌もこれに関係）この病巣の根は深い。

（問題2）地球環境への配慮の無さ。分別ごみの観念が無い。車、エネルギー浪費。地球温暖化の根源がここにあり。石油浪費による中東問題の根源もここにあり。

（問題3）基本的に、手より口が達者。身を粉にして働くような姿勢を見ることはない。これは、かえって合理化の推進や独創的な発明の元になっているのかもしれないが。

（問題4）無断のキャンセル多し。連絡手段の問題か、誠実さが不足しているのか。

（問題5）米国至上主義→他に学ぶ姿勢乏しい

（問題6）武力的解決

（問題7）清潔観念不足（Standard precaution, 身だしなみ, 飲食）

⑤ 参加仲間との交流（他職種、他施設の現状を知る）

普段近くにいながら、実はよく理解していなかった他職種の仕事内容や技能、考えを合宿にも似た環境の中で知ることができた。また、こういった相互理解の必要性を日本にいる他の医師たちにも教えたいと痛感した。

## IV 今後の課題

Page. 4

### 課題

- ① 日本の医療事情に見合ったチーム医療の追求
- ② 将来は、日本から海外に発信できるチーム医療にまで発展させること
- ③ 日本の医療労働環境の改善（医師数、看護師のレベルアップ、薬剤師の活用、その他の職種の充実、医師に労働基準法適応、医師の無給労働撤廃などなど）
- ④ 日本人の語学力、独創性、発言力を高めて、日本の医療の良さを発信する努力

### 次の15年で変えたいこと

- ・ 世界に発信できる日本になること（平和・地球保護・健康（医療））
- ・ そのために、日本人が個（の意思）を大事にすること
- ・ “ゆとり”のある労働環境にすること

### 感想

- ・ チーム医療は、オーケストラ
- ・ MDA では、新しい楽器を知ることができた。
- ・ 既存の楽器の奏者は、日本の方が練習熱心。
- ・ 米国の新しい楽器を加えた独創性を称えたい。
- ・ 多数を統合し、ダイナミックは音楽を奏でるMDAを称えたい。
- ・ 日本の音楽は緻密で良く練習した成果が出ており、安心して鑑賞できるのが良さである。
- ・ 米国に見習うべきは、奏者の輝きであった。